Za・あぐりふぉーむ

Zennoh-akita agriculture+reform

2022.12.5
Vol.34

目次

生産現場情報 ：	未来に向けた地域農業を支える枝豆の産地づくり ～株式会社たかのすファーム～	Ｐ１～３
県外情報 ：	首都圏で「サキホコレ」生産者による店頭販売を実施！	Ｐ４
ご　紹　介 ：	第１４５回秋田県種苗交換会～先人に学び農業の未来をひらく～	Ｐ５～６
	秋田県立秋田北鷹高等学校　農業高校生研修	Ｐ７
	第６１回農林水産祭「実りのフェスティバル」開催	Ｐ８～９
	「フードバンクあきた」へ秋田県産食材を贈呈 ～フードドライブで集められた食品も提供～	P10
	「サキホコレ」デビューイベントを開催	P11～12

生産現場情報

未来に向けた地域農業を支える枝豆の産地づくり
～株式会社たかのすファーム～

１．法人設立の背景

２０１０年、鷹巣地区にある４法人により発足された「鷹巣地区農事組合法人協議会」で交流を図る中、「地域農業と地域を支える特産物を作りたい」との想いにいたり、県や北秋田市、ＪＡ等関係機関を交えた度重なる議論を重ねた結果、産地化に向け、枝豆に特化した栽培を行うこととなり、その後、３法人の出資により平成２９年１月に当社が設立されました。

２．経営の概要

法人名：株式会社たかのすファーム
代表者：内山　正博
所在地：秋田県北秋田市綴子字往還下８－１
（農事組合法人ぬかさわ敷地内）
構　成：７名（うち役員５名、従業員２名、雇用：臨時・パート２～３０名）
設　立：平成２９年１月
理　念：「農家と地域で未来を！未来のある地域を目指す。」
設　備：枝豆洗浄選別施設（最大処理量４㌧／日あたり）
栽培面積：６０．４ｈａ
（主要品種：湯上がり娘、ゆかた娘、あきたほのか）

内山正博　代表

枝豆の圃場

３． 経営の特色

秋田県が力を入れている枝豆の栽培に取り組み、平成２９年度作付け面積を１２ｈａからスタートしました。当社は、出資法人３社と連携してブロックローテーション方式による枝豆栽培を行っているほか、県の「ネットワーク型園芸拠点育成事業」を活用して、洗浄から包装まで自動化した県内でも数少ない大規模枝豆洗浄選別施設を備えています。大規模な設備により従業員も無駄のない作業ができ、効率的な選果を実現することができました。現在では６０．４ｈａに作付け面積を増やしています。

現在は、市場出荷を中心としていますが、価格変動リスクや売掛リスクの分散を図るほか、秋田県産の枝豆を全国にＰＲできるよう、直売所やインターネットなど販路拡大に向け試行錯誤しています。

枝豆粒選機

枝豆の選別作業

枝豆洗浄選別施設

４． 今後に向けた抱負・目標

秋田県産枝豆は、東京都中央卸売市場で２年連続日本一（７月～１０月の出荷量）を達成し、京浜地区中央卸売市場の年間出荷量でも日本一を達成するなど、枝豆の主要産地としての不動の地位を確立されつつあります。

当社の武藤総務部長によると、秋田県農業試験場が育成した県オリジナル品種（あきたほのか）が特に美味しいとの評価を県内外のお客様から頂いているとのことです。

「同品種の栽培を広げ、秋田県産枝豆がより全国の消費者に届くように取組んでほしい。」とのお言葉をいただきました。

枝豆選別施設での内山代表

あきたの香り豆

食味にこだわった秋田県オリジナル品種

あきたほのか

特徴

- ９月中旬～下旬に収穫する中晩生品種です。
- 香りが良く、コクのある甘味と濃い味わいが絶品です。
- 莢が大きく、豆は大粒で食べごたえがあります。

県外情報

首都圏で「サキホコレ」生産者による店頭販売を実施！

１０月３０日（日）：ヤオコーららぽーと富士見店・川越的場店・南流山店、３店舗同時開催

ららぽーと富士見店では、サキホコレ生産者協議会の柴田康孝会長、ミスあきたこまちが店頭でお客様一人一人に直接サキホコレの魅力を説明しました。サキホコレを試食したお客様からは「お米の粒感がしっかりしている」「もっちりしていて、噛めば噛むほど甘味がでてくる」など好印象でした。川越的場店と南流山店では、ＪＡ秋田ふるさと職員、米穀卸のヤマタネ担当者、ＪＡ全農あきた職員が店頭での試食販売会を行いました。

１１月５日（土）：イトーヨーカドーアリオ亀有店

イトーヨーカドーアリオ亀有店においてＪＡ秋田おばこ管内生産者の小玉均さん・ＪＡ秋田おばこ職員による店頭販売を実施しました。「今年本格デビューした秋田米サキホコレはいかがですか～」などお客様にＰＲしました。生産者の小玉さんは「サキホコレは食味のバランスが整った秋田米の最上位品種。ぜひ県外の多くの方に食べてもらいたい。他県産のブランド米に負けない美味しいお米を作っていきたい」と話しました。

ＪＡグループ秋田は、今後も生産者、ＪＡと一体となって、秋田米の販促活動を積極的に取り組んでいきます！

ご紹介

第１４５回秋田県種苗交換会～先人に学び農業の未来をひらく～

第１４５回秋田県種苗交換会（主催：ＪＡ秋田中央会）が１０月２９日から１１月４日までの７日間、大仙市を会場に開催され、「大輪の如く 大仙に轟け 大地の祈り」をキャッチフレーズに、県内から出品された農産物の展示のほか多彩な催しが行われました。主会場の大曲体育館では、水稲や野菜、果樹、花きなど８部門に出品された約１，３００点の農産物が展示され、優れた農産物の出品者には農林水産大臣賞をはじめとする褒賞が贈られました。

また、ＪＡ全農あきたの「秋田米コーナー」では、「サキホコレ」の特長や開発の歩みなどをパネルで紹介しました。

第２会場の雄物川河川敷では、「農業機械化ショー」が３年ぶりに開催され、最新のトラクターやコンバインなどの展示・実演が行われ、初日から多くの人で賑わいました。同会場の「ＪＡ全農あきた展」では、肥料・農薬・農業用資材の展示・紹介や「肥料・農薬相談コーナー」が設けられました。

３０日にはメイン行事となる談話会が行われ、「『オールラウンダーを目指す秋田米ブランドの再構築について』～”サキホコレ”本格デビューを迎えて～」をテーマに出席者１１名が意見を交わしました。ＪＡ全農あきたの吉田保米穀部長は「生産者を主役として、秋田米の大黒柱『あきたこまち』とともにＰＲしていく」と話しました。

来年の「秋田県種苗交換会」は、潟上市で開催される予定です。

秋田県立秋田北鷹高等学校　農業高校生研修

ＪＡ全農あきたは１１月１５日、秋田県農業の次代を担う農業高校生に県産農産物の理解を深めてもらうとともに近年生産現場で注目されるスマート農機への関心を高めてもらおうと、秋田北鷹高等学校の生物資源科３年生２８人を対象に「農業高校生研修」を行いました。

研修ではクボタアグリサービス株式会社の担当者が自動運転田植え機やトラクター、自動運転アシスト機能付きコンバインの性能を説明し、生徒が実際に操作パネルの仕組みを教わる姿も見られました。

また、実習田では自動運転田植え機の実演も行われ、生徒たちは自動走行する様子などを熱心に見学しました。その後、ＪＡ全農あきたの担当者が講師となり、「全農の役割」や「秋田県産農産物の流通実態と消費地の動向」についての研修も行い、参加した生徒は「最新技術の備わった農機の実演を見ることができた」、「何気なく食べている県産のお米や野菜がどのように流通しているかのをこれまでとは違った視点で学ぶことができて嬉しかった」と話していました。

第６１回農林水産祭「実りのフェスティバル」開催

１１月１１日～１２日の２日間、東京都サンシャインシティーワールドインポートマートビルにおいて第６１回農林水産祭「実りのフェスティバル」が３年ぶりに開催され、ＪＡ全農あきたは、秋田県ブース内で「ミスあきたこまち」や「ミス・フレッシュ秋田」をはじめ、職員が秋田県産農産物を販売しました。

今年デビューした「サキホコレ」をはじめ、ＪＡ全農あきたのインターネットショップ「ＪＡタウンおらほの逸品館」で販売している商品を中心に１８種類の秋田県産農産物を販売しました。
「サキホコレ」や「あきたこまち」をラップにくるんでの試食では、「サキホコレは、テレビで紹介されていたから食べてみたかった」と話すお客様が多く、「もちもちしている」「粒が白くておいしい」などの感想が聞かれ、準備した「サキホコレ２ｋｇ」の精米は即完売となりました。

秋田県の特産品「とんぶり」、「比内地鶏スープ」が売れ筋となったほか、厚みがしっかりした「菌床しいたけ」が主婦層から人気を集めました。

「のむりんご」「のむとまと」「葡萄のしずく」の果汁１００％ジュースは、飲みやすくておいしいと好評でした。子供にも安心して飲ませることができると購入していく方も多かったです。

ＪＡ全農あきた事業イノベーションプロジェクトで開発した秋田県産にらを使った「にらしょうゆ」を「あきたこまち」にのせて試食してもらいました。「にらのパンチが効いていてご飯がすすむ」など感想を頂きました。
卵料理などにも合います。
現在、秋田県内の道の駅をはじめ販売店舗を拡大中です。

農林水産祭「実りのフェスティバル」

農林水産業と食に対する理解の増進と農林水産物の消費拡大を目的に、農林水産省が公益財団法人日本農林漁業振興会と共催で昭和３１年から開催しています。
今年は３０道県と農林水産関連の１０団体が出展し、多くの来場者で賑わいました。

「フードバンクあきた」へ秋田県産食材を贈呈
～フードドライブで集められた食品も提供～

ＪＡ全農あきたは１１月８日、一般社団法人フードバンクあきたへ秋田県産あきたこまち精米６０㌔とジュース「”のむ”トマト」４０箱を贈呈しました。

また、ＪＡ全農あきたと県内全農グループ会社の職員が、自らの行動により経済的に困窮する家庭への食を通じた支援につなげようと家庭で余った食品を集めて支援が必要な人に届ける「フードドライブ」に初めて取り組み、集められたレトルト食品やお菓子、飲料など５７㌔を提供しました。贈呈式で、ＪＡ全農あきたの椎川浩副本部長は「食に困っている学生や子どもたちにおいしいものをお腹いっぱい食べて明日への活力につなげてもらいたい」と話しました。

今回贈呈した県産食材等は、社会福祉協議会を通じて子ども食堂を運営する団体のほか、経済的に困窮する大学生や留学生などへ届けられます。

なお、１１月２５日には秋田公立美術大学に届られ、学生が自由に持ちかえることができるよう専用棚に並べられました。

「サキホコレ」デビューイベントを開催

１０月２９日に本格デビューを迎えた秋田米新品種「サキホコレ」。デビューイベントが東京と秋田で同時開催されました。東京会場（銀座）には、猿田和三秋田県副知事や「サキホコレ」のイメージキャラクターを務める秋田県出身のタレント壇蜜さんらが出席しました。

秋田会場は「秋田県種苗交換会」開催中の大仙市の大曲市民会館で東京会場のパブリックビューイングが行われ、イベントの最後には両会場の出席者が壇蜜さんの「サキホコレ！」のかけ声でデビューを祝いました。

東京会場のイベント終了後、百貨店「銀座三越」では販売促進キャンペーンが行われ、猿田副知事やナマハゲ、ミスあきたこまちが店頭で「サキホコレ」をＰＲ。先着１００名にはサキホコレ３００ｇをプレゼントしました。売り場にずらっと並べられたサキホコレを手に取り、早速買い求めるお客さんで賑わいました。

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
JA全農あきた営農情報誌 Za:あぐりふぉーむ
第34号　令和4年12月5日発行
編集・発行　JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号　018-864-2462